大宅文庫ニュース
第79号
2012年7月15日発行
■
発行所
公益財団法人大宅壮一文庫
理事長　枝廣映子
東京都世田谷区八幡山3-10-20
〒156-0056
電話03-3303-2000

迅速・確実・丁寧に

奥田　史郎

呼ばれて書斎に行くと、だしぬけに大宅先生が「三十九の女はなんと言ったかね」と聞く。「三十九の女？…三重苦の女…、ああ、ヘレン・ケラーのことですか」「うん」。先生は頷いて黙々と原稿を書き続ける。仕事に関する会話は大方このような調子で、一を聞いて三くらいは考える訓練になった。書斎ではそんなトラブルは起こらなかったが、日常生活ではときどき〝待てしばし〟が利かないことがあった。茶の間で耳かきがいつもの個所に見つからないと「耳かきの三本や五本、買っておけ！」と雷が落ちる。庭へ出ようとして庭下駄がなかったときの霹靂も「下駄の三足や五足」と、数まで同じでおかしい。

原稿用紙は満寿屋製に似た特注の障子罫の四百字詰め、筆記具は2Bか3Bの芯の太い鉛筆で、新聞社用のものをよく使っていた。四、五個のピースの空缶に二〇～三〇本ずつ立ててあり、芯が太くなったのを交替で削るのだが、好みの芯の太さ加減が微妙だった。

原稿全体を一つの建築物とすると、土台や柱、屋根、壁、窓などの構造やデザインの重要性とともに、書いている途中で、壁に額、棚に壺、ときには柱の一画に飾り釘が必要になることがある――と訪れる仕事関係者に、必要に応じて手早く多様な資料が引き出せる自分の資料室をそんなふうにアピールしていた。だから、週刊誌のコラム、雑誌欄外の短文でも見逃すなと言われていた。初期のころから宿命的に資料整理やカードづくりは、押し寄せる新刊群に追われる状況である。その対策を協議しているところへ珍しく先生が顔を出した。「つまらないものは省き、重要なものだけ採るようにしたらどうでしょう」との提案に先生が「重要か重要でないかは、誰がどうして決めるのかね」と応じて決着した。

「自分は書き損じで原稿用紙を無駄にしたことがない」も自慢の一つで、「書いている論旨が間違ったと気付いたときには『……という考えもあるが』と入れて、書き継ぐんだ」と、さも自分がそうしているかのように、よく他人に話していた。が、私は先生が原稿用紙の半分以上書いた部分を懸命に消しているところを、茶菓を持って行って一度ならず目撃したから、これも、人を喜ばせるための作り話だったことがわかる。

取材ノートも小型の新聞社用で、表紙にテーマとA、B、C別が書いたものを数冊渡され、その各ページに青鉛筆でノンブルをつけるよう頼まれた。積み上げた資料や取材メモを読み込むときは集中して貧乏ゆすりになり、家族に指摘されると「俺のはナポレオン振るいだ」と言い返していた。使うべき資料や挿話は、原稿用紙の裏に書き出した〝原稿の構成内容〟別に出典個所を記入していく。問題や人物を、桁数の小さい素数に還元して索引とする。仕事の後で見ると、その索引項目に〈✓〉印がついているのは、原稿に記載した点検である。クリーニングのCM「仕上げは迅速・確実・丁寧」というのを見て「俺も同じだ」と呟いてニヤリとしたことがあったが、仕上がり原稿からは見えぬ仕込みと加工作業は予想外にオーソドックスで、しかも丁寧な作業を経ていたのである。

（評論家　大宅壮一文庫理事）

受賞記念エッセイ

第四十三回 大宅壮一ノンフィクション賞

増田俊也 森健と 被災地の子どもたち

『木村政彦はなぜ力道山を殺さなかったのか』／『つなみ 被災地のこども80人の作文集』／『「つなみ」の子どもたち 作文に書かれなかった物語』

本年四月十日、第四十三回大宅壮一ノンフィクション賞選考委員会（公益財団法人日本文学振興会）は、猪瀬直樹、関川夏央、立花隆、西木正明、藤原作弥の五選考委員（柳田邦男委員は欠席）のもと、平成二十三年中に刊行された作品および応募原稿の中から、増田俊也『木村政彦はなぜ力道山を殺さなかったのか』（新潮社刊）と、森健と被災地の子どもたち『つなみ 被災地のこども80人の作文集』／『「つなみ」の子どもたち 作文に書かれなかった物語』（いずれも文藝春秋刊）を受賞作品として決定した。贈呈式は六月二十二日、帝国ホテルで行われた。また東京での贈呈式への出席が難しい東北の子どもたちのため、大宅賞としては初めての出張贈呈式が七月八日、ウェスティンホテル仙台で行われた。

受賞作以外の候補作は次の二篇だった。

三山喬『ホームレス歌人のいた冬』（東海教育研究所刊）、柳澤健『1985年のクラッシュ・ギャルズ』（文藝春秋刊）。

大宅壮一ノンフィクション賞受賞の増田俊也、森健の両氏に受賞記念エッセイをご寄稿いただいた。

（写真は日本文学振興会のご協力による）

本の時代は終わっていない

増田 俊也

書籍の時代は終わった。活字の時代は終わった。単行本の売り上げが減り、有名雑誌の廃刊が続く昨今、よくいわれる言葉である。

だが、本当なのか。

『木村政彦はなぜ力道山を殺さなかったのか』は雑誌連載時に原稿用紙二三〇〇枚もあった作品である。書籍化にあたってそれを削りこんでいったが、それでも一六〇〇枚あった。

新潮社にかなりの無理を聞いてもらい、一冊にまとめるために活字サイズを下げ、さらに二段組みにした。

実物を見てもらえればわかるが、これはもう完全に辞書の作りである。完全な辞書である。

何年か前、『大山倍達正伝』（新潮社）がその分厚さで話題になったが、あれでも原稿用紙一一〇〇枚。その一・五倍なのだ。

書店で見た者はその厚さに圧倒され、レジに持っていくのをためらっただろう。税込み二七三〇円という価格にネット上の書籍販売最大手のアマゾンでもなかなか購入できずにいたに違いない。

しかし、これらのハードルもなんの、発売前の「厚すぎて売れないのではないか」という新潮社の心配を吹っ飛ばし、読者の口コミで一気に売れ始め、発売八カ月で十九刷、今も売れ行きを伸ばし続けている。

購入時のハードルは、おそらく一五〇〇円位の値段のごく普通の厚さの本の二倍ではきかないと思う。厚みや値段が倍になればハードルの高さは二倍になるのではなく、二乗あるいは三乗、四乗ととてつもなく上がっていたはずだ。

それでも売れた理由はいくつもあるだろう。

だが、今になってよく考えると、実はこの本の武器は最大の弱点だと思われていた厚さにあったのではないか。

出版後、多くの読者から感想をいただいた。若い読者はメールで、年配の読者たちは自筆の便箋に何十枚もびっしりと書いてくれていた。

みんな「魂を揺すぶられた」と書いてあった。それはこの作品に長大なる本物の物語があるからだ。読者の魂にぶつけるに、

小手先の技は通用しない。

本当の本好きは、いまでも物語にどっぷりと浸りたがっている。それをこの本が証明できたことがいちばん嬉しい。本は死んでいないのだ。本物をぶつければ本物の読者は必ず応えてくれる。それをこの本が証明した。

物語の長さ。

それはまさに本だけが持つアドバンテージなのだ。

本が他の表現手法と比べてまさっているのは、まさに長さなのだ。この作品を読むにはおそらく十時間では無理だ。最低でも十五時間はかかるだろう。しかし十五時間もの長大な映画などありえない。

この作品は木村政彦ひとりの人生を追ったものではない。木村の師匠牛島辰熊、木村の弟子岩釣兼生という師弟三代の絆を縦軸に、さらにそのまわりを囲む力道山、大山倍達ら格闘家たち、東條英機や石原莞爾といった軍人や為政者たち、正力松太郎ら財界人、そして裏社会の人々。彼らのことを語り尽くすに、そして昭和という時代を語り尽くすに、書籍以外の表現手法では届かなかった。

本は決して死んでなどいない。本こそが表現手法の王道である。間違いなく王道である。

※『木村政彦はなぜ力道山を殺さなかったのか』の連載は、「ゴンカク」二〇〇八年一月号～「ゴング格闘技」一一年七月号。当館でご覧いただけます。

略歴〈ますだ　としなり〉一九六五年愛知県生まれ。北海道大学中退。北大柔道部で高専柔道の流れを汲む寝技中心の七帝柔道を経験。四年生の最後の試合を終えて部を引退後すぐに大学を中退し、八九年秋に北海タイムス社入社。九二年、中日新聞社へ。〇六年、『シャトゥーン ヒグマの森』（宝島社）で第五回「このミステリーがすごい！」大賞優秀賞受賞。

雑誌「g2」「新潮45」などでノンフィクションを、「オール讀物」「群像」「小説新潮」などで小説やエッセイを、「ゴング格闘技」や中日スポーツ・東京中日スポーツなどで評論を発表し続けている。近く角川書店から『七帝柔道記』発売。『七帝柔道記』第二部は現在も武道雑誌「月刊秘伝」で連載中。

東北に向かわせる力になったもの

森　健

あの日、揺れを感じたのは浜松町の世界貿易センタービルで、トイレから出た直後だった（もう少し揺れが来るのが早かったら、別の惨事になっていたかもしれない）。交通機関が停まる中、五時に築地の朝日新聞社で打ち合わせを済ませ、そこから世田谷区の自宅まで歩いて帰った。築地から家までは約十二キロ。早足で人々を追い越しながら、二時間半で自宅に着いた。

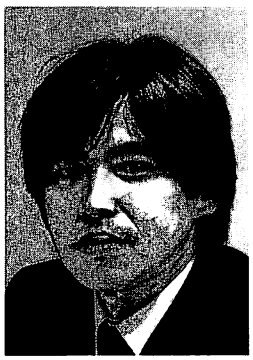
急ぎ足で歩きながら考えていたのは、二歳の娘のことだった。保育園では無事なのか、怪我はないか、泣いていないか……。着いてみると、少し前に家内が迎えに来ており、娘は普段と変わらぬ元気な顔を見せた。

被災地の岩手県大槌町と釜石市に取材に行ったのはその一週間後のこと。避難所で健気に遊ぶ子どもたちを見て、あの風景を前に彼らは何を見てどう感じているのだろう、と考えた。その後吉村昭氏の『三陸海岸大津波』に遭遇した。同書の中には昭和大津波の時の尋常高等小学校の子どもの作文があり、それに啓発されて、被災地の子どもたちに作文を書いてもらう取材に回りだした。

振り返ると、おそらく被災地の子どものことを考えた基盤にはわが子の存在があった。あの衝撃をわが子だったら、どう受け止めただろうか。わが家だったら、自分はどう動いただろうか。そんな思いが基底にあり、そこからかの地の子ども、そして家族の取材をしたいという考えにつながったように思う。

取材の過程で、そうしたことは口にはしなかった。あくまでも広く震災を伝えるためと意図を伝え、子どもや保護者に依頼をし、話を聞かせてもらった。

実際、東北の子どもたちの作文は、こちらの想像をはるかに越えた内容だった。目の前で何かを尋ねても、子どもから返ってくる言葉は決して多くない。だが、避難所で鉛筆に語らせた言葉は、当の親たちも驚くほど雄弁だった。子どもたちは自分の目で見たこと、肌で感じたこと、静かに心の中で思っていたことを素直に綴っていた。当初数人書いてくれればいいほうだろうと困難を予想していたが、現地の反応は積極的で、足を



運ぶほどに書いてくれる子どもたちは増えていった。これはまとめたら大変な作品になるかもしれない。そんな予感は取材中でも感じていた。

一方で、個々の家族に話を聞かせてもらうほどに、家族というものに思いを馳せずにはいられなかった。家族とは何なのか、東北という土地において子どもや家族はどういう存在なのか――。その答えの一端を少しでも掴もうと、震災から立ち上がろうとしている家族のもとにたびたび通わせてもらった。それは被災からの再生過程を追う取材でもあったが、同時に、現代において崩れようとしている家族という存在そのものを問い直す取材でもあった。作文集『つなみ』を基に、ノンフィクション『「つなみ」の子どもたち』を書いた根底にはそんな思いがあった。

そして、それは私自身にとっても、わが子や家内など自分の家族に思いを馳せる過程でもあった。四日、五日と家を空ける中、暗い夜道で電話をかけて少しおしゃべりをする。メールに添付された写真でわずかな成長を喜ぶ。この取材で背中を押していた力はまさに自分の家族にあったように思う。あらゆる作品は、私的な思いが深いところにあるほど、強い力をもって伝わる。もし拙著から個々の東北の家族の話を超えて伝わる何かがあったとすれば、その一端にはそんな私的な思いが潜んでいたのかもしれないと思う。

略歴〈もり　けん〉一九六八年東京都生まれ。早稲田大学法学部卒業。大学在学時よりライターをはじめ、九一年より講談社の科学雑誌「クォーク」、経済誌「ネクスト」、ニュースグラフィック誌「ヴューズ」で専属記者を務める。九六年からフリーランスに。「文藝春秋」「週刊文春」をはじめ各誌で人物ルポ、経済記事を中心に執筆。

東日本大震災の被災地には、地震の一週間後から毎月足を運び取材を続けている。

◈ 作品紹介 ◈

『木村政彦はなぜ力道山を殺さなかったのか』

一九五四年、柔道史上最強の達人・木村政彦は力道山とプロレス選手権試合で闘う。この試合は「昭和の巌流島決戦」といわれたが、実は事前に引き分けにする約束であった。しかし力道山が裏切り、突如猛攻。木村は無様な失神KO。敗戦の影響は大きく表舞台を追われる。試合後、復讐のため短刀を持って力道山の外出時に後をつけたこともあったが断念。その後三八年の間死ぬまで恨みつづける。

「もしはじめから真剣勝負をやっていれば木村政彦は力道山に勝っていたはずだ。」それを証明するために著者は膨大な資料にあたり、関係者に取材しながら本書を書き出す。

十七歳から牛島辰熊に師事し、文字どおり血のにじむ稽古を重ねた木村は、全日本選士権三連覇、天覧試合制覇と柔道最強の地位までのぼりつめる。

しかし不器用な木村は、町の有力者と人脈をつくれずプロ柔道の興行は失敗。不運も重なり、真剣勝負が信条の柔道家はいつしか台本のあるプロレスに身をやつす。そしてあの力道山戦に導かれる。

本書は『ゴング格闘技』に連載され、取材と執筆を並行しながら進められた。しかし力道山戦の緻密な考証をすればするほど、「真剣勝負なら勝っていた」という結論を導き出すべく書き進めることに迷っていく。

栄光をつかみ人気者になった力道山は九年後に三十九歳で刺殺され、敗れた木村は三十七歳のあの試合から七十五歳まで老残をさらしながら生き抜いた。悔やむ気持ちを背負いながら生き続けた木村政彦の生涯を敬愛の念をもって描く。

『つなみ』／『「つなみ」の子どもたち』

この惨状をいかに伝えるべきか。どうすれば、後世にも残る記録として刻みつけることができるのか――東日本大震災後、筆者はこの思いを胸に、被災地の岩手・宮城の沿岸部の避難所を訪れた。

取材のヒントは、吉村昭『三陸海岸大津波』に掲載されていた、昭和八年の大津波で被災した子どもたちの作文が、拙い文章ながら津波の恐ろしさを生々しく伝えていたことだった。

作文集『つなみ』は、十市町八六人の被災した保育園児から高校生までの子どもたちが書いた作文で、地震・津波の凄まじさや恐ろしさをありのままに伝えていた。何編かは手書きの原稿がそのまま掲載されており、子どもらしい拙い文字で綴られた震災体験は、まるで子どもたちの声が直に伝わるようで、胸に迫るものがあった。

作文集を基にして、後に刊行された『「つなみ」の子どもたち』では、作文を書いてくれた子どもたち、それを取り巻く家族たちをより深く描いている。

作文からは、震災をきっかけに子どもたちが成長していることにも気付かされる。さらに周りの大人たちも作文を読むことで、震災後の子どもの心の変化を知ることができたという。聞けずにいた子どもの本心をこの作文でやっと知ることができたという親もいた。子どもたちの笑顔は身内や家や仕事を失った被災地の家族の中で、生きる力を与えてくれていた。

この作品が津波の凄まじさや怖さを伝えるだけでなく、復興に向かう人々の希望となり、未来へ読み継がれることを願う。

索引データから見る第30回オリンピック・ロンドン大会

第三〇回オリンピック競技会は、七月二七日から八月一二日まで行われる。

ロンドンで行われるのは一九〇八（明治四一）年の第四回、一九四八（昭和二三）年の第一四回に続いて三度目である。

大宅壮一文庫の索引目録では、第四回のデータが一件、第一四回の記録が五件収録されている。

第二次世界大戦後初めて開催された第一四回大会には、敗戦国ドイツと日本は参加が認められなかったが、当時水泳の故・古橋広之進選手が未公認ながら世界記録を更新していたため、幻の金メダルと呼ばれた。ちなみに古橋のこの年の索引件数は三件である。

今回の五輪代表選手の索引ランキングを下表で示したが、やはり水泳の北島康介、陸上の室伏広治、レスリングの吉田沙保里と複数回出場してメダルを獲得した選手が上位を占めている。

初出場では卓球の石川佳純と体操の田中理恵に注目が集まっている。国際試合でも結果を残している二人はどんな成績を残すのだろうか。

ランキングを集計した六月の時点では、男女サッカー代表と女子バレーボール代表の選手は決定していないが、人気選手が多く、ランキングでも上位に入ることだろう。

二〇年前のバルセロナ大会の水泳・岩崎恭子選手のように、金メダルを獲得し一躍シンデレラになる選手は現れるだろうか。

別表で大会ごとの索引件数の推移を一覧にした。スポンサー協賛金の導入により商業的な成功を収めた一九八四年の第二三回ロサンゼルス大会以降、索引件数が大会ごとに増加しているのが分かる。

さて、今大会ではどんな記録が生まれるのか。鮮やかに記憶される名勝負、名選手は誕生するのだろうか。期待して開会を待っている。

ロンドン五輪日本代表選手索引ランキング

1.	北島康介（水泳）	364件
2.	福原愛（卓球）	332件
3.	室伏広治（陸上・ハンマー投げ）	214件
4.	潮田玲子（バドミントン）	176件
5.	錦織圭（テニス）	157件
6.	浜口京子（レスリング）	116件
7.	吉田沙保里（レスリング）	76件
8.	石川佳純（卓球）	67件
9.	入江陵介（水泳）	65件
10.	田中理恵（体操）	62件
11.	福島千里（陸上・短距離）	56件
12.	内村航平（体操）	55件
13.	太田雄貴（フェンシング）	49件
13.	寺川綾（水泳）	49件
15.	松田丈志（水泳）	47件
16.	水谷隼（卓球）	44件
17.	平野早矢香（卓球）	42件
18.	伊調馨（レスリング）	34件
19.	岸川聖也（卓球）	30件
19.	三宅宏実（ウエイトリフティング）	30件
21.	福見友子（柔道）	24件
22.	中村美里（柔道）	21件
23.	尾崎好美（陸上・マラソン）	20件
24.	藤原新（陸上・マラソン）	19件
24.	法華津寛（馬術）	19件
参考（代表未定選手）		
澤穂希（サッカー）		139件
栗原恵（バレーボール）		129件
木村沙織（バレーボール）		128件

索引紹介

オリンピヤン大競技　第４回於ロンドン
冒険世界 1908年９月

ロンドン・オリンピックの戦績をたどる
週刊朝日 1948年８月29日

第14回ロンドン大会のこと　オリンピック楽屋噺
眞相 1948年10月

世界記録、成るの日　**アサヒグラフ 1947年９月３日**

大会別件数推移

東京大会（１９６４）	311件
ロサンゼルス大会（１９８４）	236件
ソウル大会（１９８８）	437件
バルセロナ大会（１９９２）	238件
アトランタ大会（１９９６）	422件
シドニー大会（２０００）	577件
アテネ大会（２００４）	699件
北京大会（２００８）	924件

※索引件数はすべて2012年６月調査

人名索引件数ランキング

ＡＫＢ48が上位をすべて独占。大阪市長の橋下徹は22位に急上昇

約四〇〇誌から採録している当館雑誌記事索引から、人名記事の件数順位を紹介する「人名索引ランキング」。五月に当館のホームページでも紹介しているが、総合ランキングについては二〇一二年六月に再度調査をした。

総合ランキング上位では、二位の小沢一郎が松田聖子との差を、昨年の六〇〇件からあと三〇〇件までに詰めたが、なんと「松田聖子再々婚」のニュースが飛び込んできた。二〇一二年度ランキングの行方が気になるところだ。また『日本列島改造論』の出版から四〇年が経過、田中角栄は徐々に順位を下げて五位となった。

二〇一一年度の一位は、ＡＫＢ48の前田敦子。続いて大島優子、柏木由紀、篠田麻里子、渡辺麻友、板野友美、指原莉乃、峯岸みなみ、ＡＫＢ48と、一位から九位までをグループと個人で独占した。

政界のトップは小沢一郎・元民主党代表（一一位）。資金管理団体の政治資金規正法違反の公判で、元秘書三人が有罪となった。菅直人前総理（一八位）にかわり、内閣総理大臣となった野田佳彦は二七位にランクイン。「大阪都構想」を掲げ大阪府知事を辞任し、大阪

人名索引総合ランキング

（　）内は前年順位、（－）は前年100位以下

1	（1）	松田聖子（歌手）	4,817件
2	（2）	小沢一郎（政治家）	4,503件
3	（3）	長嶋茂雄（野球）	3,956件
4	（5）	雅子皇太子妃	3,403件
5	（4）	田中角栄（政治家）	3,365件
6	（6）	皇太子（浩宮）	3,189件
7	（7）	三浦百恵（歌手，山口百恵）	2,942件
8	（8）	中曽根康弘（政治家）	2,647件
9	（9）	昭和天皇	2,644件
10	（10）	ビートたけし（タレント）	2,586件
11	（11）	貴乃花光司（相撲）	2,574件
12	（15）	今上天皇	2,408件
13	（13）	木村拓哉（ＳＭＡＰ）	2,404件
14	（14）	松井秀喜（野球）	2,332件
15	（12）	宮沢りえ（タレント）	2,318件
16	（16）	石原慎太郎（政治家，作家）	2,315件
17	（17）	中森明菜（歌手）	2,264件
18	（18）	清原和博（野球）	2,237件
19	（19）	王貞治（野球）	2,221件
20	（20）	イチロー（野球）	2,202件
21	（21）	ダイアナ妃（元イギリス皇太子妃）	2,036件
22	（22）	田中真紀子（政治家）	1,972件
23	（23）	江川卓（野球）	1,941件
24	（24）	美空ひばり（歌手）	1,919件
25	（25）	郷ひろみ（歌手）	1,896件
26	（28）	美智子皇后	1,808件
27	（26）	小泉純一郎（政治家）	1,770件
28	（27）	中田英寿（サッカー）	1,762件
29	（30）	原辰徳（野球）	1,718件
30	（29）	竹下登（政治家）	1,691件

2011年人名索引ランキング

1	（2）	前田敦子（ＡＫＢ４８）	572件
2	（3）	大島優子（ＡＫＢ４８）	562件
3	（－）	柏木由紀（ＡＫＢ４８）	528件
4	（4）	篠田麻里子（ＡＫＢ４８）	521件
5	（－）	渡辺麻友（ＡＫＢ４８）	517件
6	（5）	板野友美（ＡＫＢ４８）	516件
6	（－）	指原莉乃（ＡＫＢ４８）	516件
8	（－）	峯岸みなみ（ＡＫＢ４８）	491件
9	（7）	ＡＫＢ４８（タレント）	466件
10	（10）	櫻井翔（嵐）	343件
11	（1）	小沢一郎（政治家）	318件
12	（8）	二宮和也（嵐）	316件
13	（11）	大野智（嵐）	307件
14	（12）	相葉雅紀（嵐）	299件
15	（34）	斎藤佑樹（野球）	243件
16	（－）	島田紳助（タレント）	238件
17	（14）	嵐（タレント）	233件
18	（16）	菅直人（政治家）	207件
19	（－）	チャン・グンソク（俳優）	171件
20	（35）	雅子皇太子妃	141件
21	（20）	市川海老蔵１１代（歌舞伎）	135件
22	（－）	橋下徹（政治家，弁護士）	127件
23	（63）	関ジャニ８（タレント）	123件
24	（－）	スティーブ・ジョブズ（アップル）	118件
25	（33）	木村拓哉（ＳＭＡＰ）	113件
26	（－）	ＫＡＲＡ（歌手）	111件
27	（17）	沢尻エリカ（女優）	110件
27	（－）	野田佳彦（政治家）	110件
29	（57）	向井理（俳優）	108件
30	（19）	敬宮（皇族）	99件

市長となった橋下徹は二二位に。

芸能界では、ランキング上位をＡＫＢ48に独占されたが、櫻井翔（一〇位）、二宮和也（一二位）、大野智（一三位）、相葉雅紀（一四位）と嵐のメンバーがそれに続いた。その他ジャニーズからは、関ジャニ８が二三位、ＳＭＡＰの木村拓哉が二五位に。

韓流スターからは「ツンデレ王子」チャン・グンソクが一九位、ガールズグループのＫＡＲＡが二六位にランクイン。

暴力団との黒い交際が発覚し、芸能界を引退した島田紳助は一六位。二〇一〇年のＮＨＫ朝ドラ『ゲゲゲの女房』に続き、大河ドラマ『江』に出演した向井理は二九位。

スポーツ界からはただ一人、ドラフト一位で北海道日本ハムに入団し、再び「佑ちゃんフィーバー」を起こした斎藤佑樹が十五位に。

多くのヒット作を生み出し、世界を熱狂させたアップル社の創業者スティーブ・ジョブズは二四位にランクイン。突然の訃報を受け、哀悼の声が世界中から沸き起こった。

二〇一一年は「東日本大震災」「福島第一原発事故」と未曽有の災害が発生し、その影響により件名項目ランキングが大きく変動した。今年は件名索引ランキングベスト二〇も掲載する。

東日本大震災（一位）、福島第一原発事故（二位）のほか、事故対応にあたった四位「菅内閣」と一九位「東京電力」、脱原発か再稼働かで揺れる五位「原子力発電」。国内外を問わず寄せられた支援や著名人の慈善活動を含む「チャリティ」（二七位）がランクイン。

ランク外では二九位「有害食品」、三二位が「原子力一般」。災害報道を検証する「マスコミ一般」が二一位、民間企業の被災地支援や企業の社会的責任などの記事を分類した「企業と社会」が三九位になった。

今年上半期の人名項目は、ＡＫＢ48のメンバーが五人、嵐が四人と相変わらず芸能優勢だが、政局次第では政界再編のキーマン・橋下徹がこの中に割って入り、一気にトップに躍り出るか？

一年を折り返したところだが、一審で無罪判決が出るも指定弁護士の控訴で高裁での裁判が続く一一位の小沢一郎と、ランキングに顔を見せてはいないが過去二回の結婚で件数を伸ばした松田聖子の再々婚により今年のランキング争いも目が離せない。

2011年件名索引ランキング

1	（－）	東日本大震災	2,551 件
2	（－）	福島第１原発事故	1,963 件
3	（1）	インターネット	827 件
4	(11)	菅内閣	822 件
5	（－）	原子力発電	795 件
6	（5）	化粧品	681 件
7	（4）	菓子一般	615 件
8	(12)	携帯電話	572 件
9	（7）	アニメーション一般	566 件
10	(14)	バッグ	502 件
11	(13)	履き物	472 件
12	(16)	着こなし	460 件
13	（9）	酒場一般	417 件
14	(18)	老人一般	406 件
15	(21)	痩身美容	373 件
16	（8）	経済・産業一般（中国）	370 件
17	（－）	チャリティ	367 件
18	(20)	ポルノビデオ	366 件
19	（－）	東京電力	361 件
20	(25)	化粧法	350 件

（　）内は前年順位、（－）は前年 100 位以下

2012年上半期人名索引ランキング

1	前田敦子（ＡＫＢ４８）	199 件
2	大島優子（ＡＫＢ４８）	174 件
2	指原莉乃（ＡＫＢ４８）	174 件
2	橋下徹（政治家，弁護士）	174 件
5	渡辺麻友（ＡＫＢ４８）	173 件
6	ＡＫＢ４８（タレント）	150 件
7	大野智（嵐）	141 件
7	松本潤（嵐）	141 件
9	相葉雅紀（嵐）	136 件
10	小沢一郎（政治家）	117 件
11	櫻井翔（嵐）	114 件
11	ダルビッシュ有（野球）	114 件
13	嵐（タレント）	90 件
14	中島知子（オセロ）	85 件
15	今上天皇	82 件
16	雅子皇太子妃	60 件
17	中畑清（野球）	53 件
18	立川談志（落語）	52 件
19	チャン・グンソク（俳優）	47 件
20	島田紳助（タレント）	43 件

※ＡＫＢ４８、嵐のメンバーはグループ＋個人の件数をカウント

文庫の近況

□大宅壮一文庫は「公益財団法人」になりました□

新公益法人制度の下で認定を受け、平成二四年四月一日付けで「公益財団法人大宅壮一文庫」となりました。

公益財団法人への移行により、四月一日以降当財団へいただいたご寄附は、特定公益増進法人への寄附として寄附金控除の対象となります。

これからも資料の拡充に努め、ご利用の皆様のお役に立てますよう努めてまいりますので、ご寄附ご援助を賜りますようお願い申し上げます。

□越生分館夏季休業のお知らせ□

埼玉県越生分館は、左記の期間夏季休業いたします。

【夏季休業期間】

七月十一日（水）～九月三日（月）

越生分館に所蔵する、雑誌・書籍の取り寄せにはお申込みから数日かかりますのでご了承下さい。

【夏季休業後の開館日について】

なお越生分館は九月四日（火）以降はしばらくの間、水曜日と木曜日を臨時休館いたします。開館日は左記の通りです。

開館日　毎週火曜日（祝日休館）

開館時間　午前十一時～午後四時まで（十二時～一時まで昼休み）

■追悼・岩崎福三様■

本年二月二九日、当財団評議員で岩崎グループ代表の岩崎福三様（享年八六）が逝去された。四月五日に鹿児島市の宝山ホールでお別れの会が営まれ、会場には約二五〇〇人が訪れ、故人との別れを惜しんだ。

岩崎様は一九二五（大正一四）年鹿児島県生まれ。立教大学経済学部卒業後、四八年岩崎産業に入社。八一年に社長に就任。二〇〇二年から現職。種子島や屋久島と鹿児島を結ぶ航路の設立、観光クルーズ船や九州新幹線の誘致、アジアからの誘客に力を注ぎ台湾との定期航空便の誘致活動などに取り組み、鹿児島の経済や観光の発展に尽力された。

一九八八年から九九年まで鹿児島商工会議所で会頭を五期十一年務め、勇退後は名誉会頭、名誉顧問となり鹿児島経済界の重鎮として活動。また岩崎美術館や岩崎育英奨学会の理事長も務められた。

当財団とのご縁は先代の岩崎産業創業者・岩崎與八郎様と大宅壮一との交友に遡る。大宅壮一が六九年に講演で鹿児島に行ったとき、当時の商工会議所会頭岩崎與八郎様と出会い、たった一回の顔合わせで両者は互いに心を許す間柄になった。

岩崎様は大宅壮一追悼文集で「いますこし先生のお話をうけたまわり、ご一緒にご旅行のお供がしたかった」と述べられている。（『大宅壮一と私』「終生の痛恨事」季龍社、七一年刊）

文庫設立以来、当財団の評議員としてご支援いただいた岩崎與八郎様は九三年に逝去されたが、その後、岩崎福三様にも評議員としてお力添えをいただいた。

ご生前のご高援に深く感謝し謹んで哀悼の意を表します。

■追悼・内記稔夫様■

本年六月一日、現代マンガ図書館館長の内記稔夫様（享年七四）が逝去された。

内記様は長年マンガの保存に尽力され、一九七八年に東京・早稲田に開設した現代マンガ図書館は、約一八万点の漫画単行本や雑誌などを収蔵する国内最大級のマンガ専門図書館として知られ、九七年にはその活動に対し第一回手塚治虫文化賞特別賞が授与された。

当館が、八〇年に行った大規模な書庫整理の際、漫画雑誌を受け入れていただいて以来の交流が続いていた。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

□二〇一二年梶山季之忌（没後三十七年）□

当財団元理事の故・梶山季之様を偲ぶ会が命日である本年五月十一日、夫人の美那江様により東京都渋谷区の青学会館で開かれた。

梶山様は社会派作家として活躍するかたわら、雑誌『噂』を刊行、大宅壮一ノンフィクションクラブに参加された。一九七一年の大宅文庫設立当初から理事に就任され、七五年に取材先で客死されるまでお力添えいただいた。

□『Web　OYA―bunko』無料トライアルのお知らせ□

一九八八年以降の索引がインターネットで検索できる『雑誌記事索引検索Web版』。「教育機関版」「公立図書館版」「法人会員版」とも、一ヶ月間「無料トライアル」実施中です。

ホームページの「Web　OYA―bunko利用案内」（PDF）またはWeb　OYA―bunko管理室までお問い合わせください。

HP（http://www.oya-bunko.or.jp/）

電話　03―3303―9968

□雑誌・書籍寄贈受入（個人）□

岩堀安三　井熊正夫　安原照雄　加藤元　阪本博志　飯塚幸子　大嶋英子　長原春雄　鈴木經太郎　弘中努（敬称略・受入順）

元「あだ花会」事務局担当の飯塚幸子様と大嶋英子様からは、会に関する貴重な資料をご寄贈いただきました。

この他に各雑誌の出版元から、定期的にご寄贈いただいております。

ありがとうございました。

□平成二十三年度利用状況□

【利用者数】　八七、五九三人（前年度より二、六〇五人減少）

【利用冊数】　六三三、五一一冊（前年度より一、〇二〇冊増加）

【一日平均利用者数】　二九七人

【一日平均利用冊数】　二、一五五冊